

第15回「緑をつくる」施策を検討する部会 会議録	
日 時	令和4年9月6日(火) 午後14時00分～16時00分
開 催 場 所	市庁舎18階共用会議室なみき17
出 席 者	石原委員、今関委員、国吉委員、高田委員
欠 席 者	池邊部会長
開 催 形 態	公開(傍聴0人)
議 題	1 「緑をつくる」事業の評価・提案について 2 その他
議 事	<p>(事務局) 本日は、委員の皆様には、ご多忙のところお集まりいただきまして、ありがとうございます。ただ今から、「横浜みどりアップ計画市民推進会議 「第15回「緑をつくる」施策を検討する部会」を開催いたします。</p> <p>まず、本会議は、「横浜みどりアップ計画市民推進会議運営要綱」第5条第2項の規定により、半数以上の出席が会議の成立要件となっておりますが、本日、委員定数5名のところ、4名のご出席をいただいておりますので、会が成立することを報告いたします。「同要綱」第8条により公開となっております。会議室内に傍聴席と記者席を設けています。</p> <p>また、本日の会議録につきましても公開とさせていただきます。会議録は、各委員の皆様事前に確認いただきたいと思っております。なお、会議録には、個々の発言者氏名を記載することとしておりますので、ご了承頂きたいと思っております。</p> <p>さらに、本会議中において写真撮影を行い、ホームページ及び広報誌等への掲載をさせていただくことも併せてご了承願います。</p> <p>次に、お手元の配布資料について、確認させていただきます。本日、紙でお配りしているのは「次第」と「別紙1 2021年度の事業目標及び進捗状況」です。お手元にご覧いただけますか。</p> <p>また、本日は事業を所管する、みどりアップ推進課、道路局施設課が出席しております。</p> <p>池邊部会長は本日、急きょ欠席の連絡をいただいております。進行については、部会長経験のある高田委員を指名してもらっていますが、皆様、よろしいですか。</p> <p style="text-align: center;">(委員の賛同あり)</p> <p>では、よろしく申し上げます。</p> <p>(高田委員) 池邊部会長の代行はとてできるものではありませんが、皆様の協力のもとに今回の議論をしていきたいと思っております。</p> <p>本日は、みどりアップ計画の柱3の施策1と施策2の評価・提案についてです。</p> <p>施策1は、市民が実感できる緑をつくり、育む取組の推進です。施策2は、緑や花に親しむ取組の推進です。</p>

それでは、事務局から説明をお願いします。

(事務局説明)

(高田委員) それでは、順番にご意見ををお願いします。

(今関委員) 地域の住民は、街路樹などについて、全部市役所が税金でやっていると思っています。それがみどり税から出ているのか、普通の税金から出ているのか区別できるわけがありません。街路樹に対しての要望は土木事務所に言えばやってくれるのは分かっています。みどり税がどういうふうに使われているかはよくみていないと思います。私自身も、自分でやっているのに理解できていませんでした。ですから、難しいと思います。

公園なども各区で色々やっています。今回の実績では、新しく土地を買い取って公園を整備して開設しています。私は住宅地として開発したところに越してきました。

公園は、開発したときに提供されるものだと思っていました。それを整備するのは税金でやってもらいますが、その後は周りに住む、使う人たちが維持管理するのが当たり前だという感覚で40年やってきました。世代交代しているのも、少しずれているのかなと思います。草ぼうぼうでも自分たちでやらなければ文句は言えないのではないかという感覚でやってきました。その代わり、割と勝手に手を出していました。

街路樹があまりに茂っていて、通ったときに頭をぶつけて枝が折れました。町内の一斉清掃のときに、「街路樹であまりに枝が下がっているところはカットして大丈夫だ」と言ったら、カットしすぎたのでしょうか。土木事務所から注意を受けました。自分たちの街なのだから、自分たちできれいにするのは当たり前ですが、もう私の感覚とずれてきているようです。

(高田委員) 私も、どこまでがみどり税でどこまでが普通税かの説明は難しいです。お願いします。

(事務局) 今の話は、ほかの部会でも言われています。「みどり税で取り組んでいる」という報告はありますが、現場での掲示はあまりないのではないかという話がありました。

今計画からは、プレートをつくって、街路樹にはないですが、花壇や市民の森に掲示しています。まだ行き届いていないところがあると思うので、より効果的に事業をやっているところの広報はできるかなと思っています。

(今関委員) 愛護会で管理している花壇もみどり税だったのですね。プレートをもらって花壇に挿しました。

(事務局) 18区で取組をしているものは2通りあります。ガーデンネックレスと一緒に区を通じて盛り上げてもらう取組と、土木事務所を通じて公園愛護会に球根や花の種、花苗の支給をってもらうものです。

プレートを付けて「みどりアップ計画で地域の取組でもやっている」とPRしています。今回、1,000公園以上であるような取組をしました。反響も大きかったです。「ここでもみどりアップ計画を展開しているのですね」という反響もありました。地道な掲示と地域での活動に取り組んでいくことが重要です。

街路樹については、道路局予算と環境創造局予算に分かれています。17億5,000万円が道路局の予算です。通常の維持管理では、交通に支障がでないような管理を行っています。

建築限界とあって、枝が出ていると車や人に当たるものについて、せん定したり、草刈などを行っています。今はみどり税をもらっているので、プラス約5億円です。街路樹による良好な景観の創出・育成事業ということで、ただ枝を切るのではなく、街並みの美観向上に寄与する街路樹を良好に育成するために、人目につくところなどで、樹形を整えるようにせん定をしたりしています。

(今関委員)

住宅開発のときに山を崩して道路を通して街路樹を植えます。その街路樹は、最初は開発業者が植えているのですか。それとも、役所で植えるのですか。

うちのほうでユリノキが植えてあり、すごく太くなりました。35、6年たったら太くなりすぎて、根上がりしてきました。昨年だったか、ほとんどを伐採してほかの木に植え替えました。「大分大きくなったのもったいないな」という気持ちと、「道路のデコボコや落葉のことで、住民から苦情も出てきたのではないか」とも思いました。

(事務局)

横浜市が道路管理者として実施する、都市計画道路や道路改良事業でやるものは、道路管理者が街路樹を植樹しています。一方で面的な開発など開発事業者が実施するものについては、街路樹の設置基準を設け、協議を実施して、開発業者が植えています。

2点目のユリノキは正にそのとおりです。ユリノキは成長が早く、排ガスに強いので昔は積極的に植え一定程度の成果を得ました。それから40年たつと高木化し、台風などに弱く折れやすいです。歩道が根上がりして、ベビーカーも押せなくなるなどバリアフリーに支障が生じてしまいます。そのため、街路樹の樹種転換を行っています。

(今関委員)

あんなに太くならないと思いませんでした。

(高田委員)

棲み分けは、何となくイメージがついたような気がします。ただ、市民からすると、それがどのようにつながって、その後せん定や改良がされるのかが分かりません。窓口として、土木事務所に伝えたものは、土木事務所が対応することになるのですか。それとも、環境創造局全体で、どのように対処していくのか、話合いの場があって実施が決まっているのでしょうか。そういうプロセスのようなものはどうですか。

(事務局)

みどり税が入る前は、予算的制約から、剪定回数が少ない状況でした。強せん定を行い、建築限界などの安全確保を実

	<p>施していました。みどり税が導入され、景観に配慮したせん定ができるのではないかと、新たに街路樹による良好な景観の創出事業を創設し、その予算を土木事務所に配布して維持管理しています。</p>
(高田委員)	<p>環境創造局に直接言う人もいるかもしれませんが、道路局が窓口になって土木事務所と調整し、実施ということですね。</p>
(国吉委員)	<p>今、いい話を聞きました。本当に初めてで、「そうなんだ」と思いました。</p> <p>確かに、街路樹のせん定が毎年行われていますが、大体、見ているとマッチ棒のようになってしまいます。みんな「ショックだわ」と言っていて、けっこうそういう話は聞いていました。私も実際見て「どうしてあんな切り方をするのかな」と思うところもありました。</p> <p>きれいに見せることをしてもらっていて、素敵なことが始まったのだなという印象がありますが、それが伝え切れていません。私たちの仕事なのかもしれません。何かの形で伝えていきたいです。</p> <p>どういうふうにもどり税を使っているかを考えると、市民には、自分が積極的に参加したり、意見が言えたりする場所が必要なのかなと思います。</p> <p>古典的な御意見箱ではないですが、メールや、区役所に誰もが入れられるものを設置したことを伝えて、入れた実績だけでも随分違ってくるのかなと思います。是非そういう投書箱ができるといいです。今の時代はメールと紙媒体の年代が混在していると思います。</p> <p>公園は非常にたくさん子どもが遊ぶ場所です。この前、きれいにせん定や草刈りが行われていました。一方で、道路側がすごく雑草が伸びていました。せっかく中が遊びやすい空間になったのに、車が走っていると非常に危険です。子どもたちが飛び出してくるのが草むらからになってしまいます。どうしてここまでやってくれないのかなと思います。何か折り合いを付けて、危険がないように、快適に過ごせるように、同時期に配慮してもらえると有り難いです。</p>
(高田委員)	<p>私たちも緑の取組をしています。端まで低木を植えてしまうと、形としては良いようですが、意外と死角ができてしまいます。角にはグランドカバーの種類を入れています。</p>
(国吉委員)	<p>歩道の雑草がけっこう高く伸びています。今年は暑くて、前半、雨が降ったこともあります。異常な伸び方でした。子どもたちが遊んでボールが飛んできたり、飛び出してきたことが何回もあり、気になりました。</p>
(事務局)	<p>道路の除草と公園内のせん定は別です。道路の植樹帯は年2回は必ず除草していますが、3回以上は予算の制約もあってなかなかできません。はまロードサポーターという制度があり、道路の清掃活動などをしていただいています。</p> <p>一方で、危険だという話があれば土木事務所に言ってもら</p>

	<p>えれば、現地を確認した上で、安全確保に努めたいとおもいますので、所管の土木事務所へ一報いただけるようお願いいたします。</p>
(国吉委員)	<p>2回というのも知っていたので、市民が自分たちでできるようなコミュニティをつくらなければいけないのだなと思いました。</p>
(今関委員)	<p>自分たちでやるより仕方ないのです。</p>
(高田委員)	<p>そういうことがきっかけになるといいですね。「悩みがあったらここへ言ったらいい」という案内があったらいいのかなとは思いますが。</p>
(事務局)	<p>みどりアップ計画をスタートしたときには、みどりを増やすことに重点を置いて、我々も色々なところにお声かけをしてきました。最近では、むしろ維持管理に関する要望や意見をもらう場面が非常に増えてきました。緑が少ないというよりも、つくってきた緑を良好に管理したいという要望が非常に多くなったというのも一つの実感です。意見を踏まえて今後の施策に生かしていきたいです。問合せ先が分かりにくいというのも一つの見解なので、それも含めて対応していきます。</p>
(石原委員)	<p>私も委員になってから市内の緑のことをなるべく注意深く見たい思いはありました。</p> <p>報告書の中で、今回は5か年計画の3年目です。昨年と同じ時期に2020年度の報告があったときに、「進捗状況が分かればよい」という意見を言いました。今回、5か年の目標に対しての3か年の実績を入れてもらいました。非常に分かりやすく提示してもらったかなと思います。</p> <p>報告書の紙面のスペースの問題もあるかもしれませんが、市民の人たちは文章を読むよりも、写真を分かりやすくしたほうがいいかなと思います。</p> <p>例えば、「緑の創出」ということで、芝生化したり、主要な駅前を緑化した写真を入れています。その前はどうなっていて、それがこういう形になったというのをビジュアルで表現できれば分かりやすく伝わるのではないかと思います。</p>
(高田委員)	<p>きれいになったと指摘されても、前はどんなだったか分からないですね。</p>
(国吉委員)	<p>写真を見てどこの地域か、この六角橋だけは分かりますが、ほかのところは写真だけだと分かりません。</p> <p>「自分たちの街のこういうところが変わった」というのが実感できるようにしてもらいたいです。区民の1人ひとりが分かるように細かく書いてもらえるといいです。</p>
(事務局)	<p>報告書は18区全部取りまとめている、どこでやっているのかは分かりにくいところがあることは認識しています。</p> <p>一方、市として実績報告書を別途まとめています。その報</p>

	<p>告書の中で、18区全部の取組を区ごとに、どこでどういう事業をやっているかをマップに落としています。こちらに同じものを入れるといっぱいになってしまうところもありますので、見られるような工夫はしたいと思います。</p>
(国吉委員)	<p>コメントで「〇〇参照」と一言あると見てもらえると思います。</p>
(高田委員)	<p>せっかく市がつくっているのに、それが連続していないのはもったいないです。1か所だけでなく、見やすいところに入れてください。皆さん気になるところだけ見ると思いますが、全部のページはしつこいと思うので、要所要所に幾つか入れたらと思います。ホームページならQRコードでもいいでしょう。そういうものがあることをどこかに大きく出したらと思います。</p>
(事務局)	<p>工夫してみます。</p>
(高田委員)	<p>P39「質の高い維持管理を行っている」とあります。「高い」とはどういう基準か分かりません。どんなことが質の高いことでしょうか。色々なことをしていると思いますが、そこが表現されていないのももったいないです。少し具体的な例を入れてもらえたらと思います。</p> <p>その後、下に「助成メニュー」と書いてあります。助成メニューとは何だろうかと思えます。読んでいて全部が理解できるような表現にしてもらえたらいいです。せっかく皆さんに努力してもらっているのに、表現をしっかりしてもらえたらと思います。</p>
(事務局)	<p>質の部分を写真で表しているつもりですが、言葉での表現も入れようと思います。</p>
(高田委員)	<p>コメントだけ読む人もいると思います。</p>
(事務局)	<p>文字を見て写真を見て質を見てもらえればと思います。</p>
(高田委員)	<p>「参照」のようにしてもいいし、工夫してもらえればと思います。</p> <p>P40でも「良好な維持管理」とあります。こちらもわかりづらいです。</p>
(事務局)	<p>例示をしたり、イメージがわくような表現でということですね。</p>
(高田委員)	<p>読んでいてイメージが浮かぶような形がいいです。</p>
(国吉委員)	<p>前に、温暖化によって桜の樹種を変えているという話がありました。業界でも、温暖化に強いバラなどが推奨されています。是非、これから何十年というところも見据え、「温暖化に強い樹種を選定している」というような言葉を入れてもらえるかと納得してもらえませんかと思えます。今までとは違うタ</p>

	<p>イブの桜になったりすると、若い人は新しい桜と認識できるでしょうが、年輩者はソメイヨシノ信仰のようなものがあるので、「温暖化」という言葉一つでも受け入れやすいと思います。</p>
(高田委員)	<p>ユリノキの根上がりのこととかもあります。</p>
(今関委員)	<p>植えたときは、あんなに大きくなるとは思わなかったのでしょうかね。</p>
(高田委員)	<p>そういうのを理解していない人は、切ってしまって「倒してしまったのか」ということだけで終わってしまいます。「みどり税というのは切ることなのか」と誤解されても困るので、その地域の人には特に丁寧に理由を説明したり、そこに表示するといいです。</p> <p>この紙面だとすぐに終わってしまうので、現場にプレートで表示したりしながら理解してもらえるようにしたいと思います。</p>
(今関委員)	<p>街路樹の植替えのときは、事前に住民への説明会があったはずですが。色々苦情も出ていただろうと思っていました。毎年、せん定は入っていましたが、落葉がすごかったです。</p> <p>すごくきれいな桜並木だったのが全部植え替えられました。ソメイヨシノでしたが、50年で木がいたんできたので、もう少し強いものに植え替えていました。事前説明はあったはずですから、半年ぐらい前から皆さん知っていて楽しみにしていました。大きく変えるときは説明を入れないといけません。</p>
(事務局)	<p>並木の再生事業については必ず町内会長や連合町内会長と相談し、地域の中の合意形成をしています。</p> <p>桜は愛着があり、かなり合意形成が難しいです。樹木診断でその桜が健康かどうかを判断して公表しています。中が腐って空洞化した写真を掲載することもあります。切ることに対してなるべく理解を得る努力をしています。丁寧に説明したり、現地に写真を載せたりして理解を得る努力を引き続きしていきます。</p>
(高田委員)	<p>続いて、施策2の評価・提案についてですが、これについて皆さんどうですか。</p>
(国吉委員)	<p>P18のところでは「あらゆる世代」という言葉を使っています。保育園、幼稚園、小学校の取組は見えていました。中間層や高齢者向けの施策が具体的に表現できていません。</p> <p>助成金が終わった後の継続的な緑についてです。お金があるときに続けられるのは当たり前で、その後どういうふうになるというのは、必要な施策になってくるのかなと思います。どこかの団体から花苗が定期的に支援されるとか、緑の協会など。</p> <p>今流行りのコミュニティガーデンもあります。みんなで種をまいたり、種蒔きや育苗の方法を勉強しながら続けていく</p>

	<p>というところまである程度やっていくと、全体的な流れとしては、「やっている」という感じになるのかなと思います。</p> <p>(事務局) 今回、我々が課題として挙げたのは正にそのところです。緑の協会など、緑の推進団体が正にそういった受け皿になるものだ我々は承知しています。できるだけ継続した活動につながるようにサポートしていきたいです。</p> <p>緑の推進団体の事業の中でも、研修会や仲間同士の交流をしています。そういったところをうまくつなげていけたらというのを、我々は課題として感じています。</p> <p>高田委員が以前取り組んでいた地域緑のまちづくりは、どちらかというと継続する活動のスタートアップの部分です。ベースとなる花壇づくりのほかに、そのグループが継続して取り組めるように研修会をしてもらい、そこにも事業費の補助をしています。できるだけ継続して、協定期間が終わる前に継続して取組がかなうようにサポートしたり、それをしっかりPRしていきたいというのが今回の課題の一つです。</p> <p>幅広い世代の部分については、この施策2に関連してやっているガーデンネックレスで皆さんにPRしています。アンケートを取ると、どちらかというと来ていただいているのは高齢の方が多いです。若年層へのPRが一つの課題です。小学校や保育園、幼稚園については、芝生化に限らず、ビオトープであるとか、そういったところと一緒にサポートしていく取組などもあります。施策全体としてはかなり多様な世代を対象に進められているのかなとは思っています。</p> <p>更に、できるだけ多くの人に参加してもらい、より多様な世代にこの事業を知ってもらうことが重要かなと思います。</p> <p>(石原委員) 先ほど施策1の記録のときに、施策2の話をしてしまいました。ページ割の問題もあるかもしれませんが、少し分かりやすいようにしてもらえたらと思います。</p> <p>(事務局) P41の「人生記念樹」というのはどういったことですか。成人や横浜市への転入など、人生の節目にあたって、応募者に人生記念樹を無料で配付しています。配付場所は区役所で、樹種は限られています。記念のものなので、自宅に持ち帰って植えて大事に育ててもらおう施策です。</p> <p>人生記念樹は、もともと人生の記念のときに公園に樹木を寄附していただくという施策でした。ただ、寄附していただいた樹木を伐採することへの懸念など、維持管理上の課題を抱えていました。</p> <p>その後、横浜市の公園の緑化が進んで行った中で、今度は「自分の家でみどりを増やしてください」ということで配付するという市独自の取組です。横浜市では、人生記念樹の樹木は市内産で全てまかなっています。JAに委託して調達しています。</p> <p>(石原委員) 実績が少ないのは何か理由があるのでしょうか。</p> <p>(事務局) 細かい分析に至っていないところでこれからの課題ですが、今、皆さんが現に植えたい樹種と我々が用意している樹</p>
--	--

	<p>種がうまくマッチしていないことが考えられます。</p> <p>最近、ブルーベリーなどを用意すると非常に人気です。もしかしたらそういう傾向に移っていて、我々がイメージしている、人生の記念で植えるべき樹種とマッチしていないのかなと思います。</p> <p>あと、住宅事情で、庭木として立派な木を植えられる環境の人ばかりではありません。鉢でも植えられる樹種に轉換しなければいけないかなと思います検討中です。</p>
(石原委員)	<p>若い世代のニーズなども踏まえると良いと思います。若い世代の人にも広がっていくと、幅広い世代の参加につながるかもしれません。</p>
(今関委員)	<p>確かにみんな、木を植えるよりも駐車場をつくってしまうほうがいいのです。何軒かまとめたの開発のときには、何本か庭木を植えなくてはいけないというのがあるみたいですが、その後一軒家になったときの建替えには、そういったものは全然ないのでしょうか。みんな地面を固められて、プランターが置けるぐらいしかありません。</p>
(事務局)	<p>建替えに際し、敷地が細分化されていくことも多いです。建築面積が小さい場合にはそういうのが適用されないことがあります。</p>
(今関委員)	<p>草が生えるといけないからと、すき間が全部固められてしまいました。だから、よく 7,000 本できたなと思います。</p>
(高田委員)	<p>記念樹はどこに植えてもいいということですか。</p>
(事務局)	<p>基本は自宅です。</p>
(高田委員)	<p>そうすると、先ほどあったように、鉢植えという発想が出てくると、マンションの人にももう少しできる可能性があります。</p>
(事務局)	<p>我々も工夫していますが、もともとの発想が地植えを想定しているので、なかなかそういった集合住宅といったところに情報としてうまく届いていないかもしれません。</p>
(高田委員)	<p>その辺りも広報してもらえたらいいと思います。</p>
(事務局)	<p>もちろん、目標を掲げてやっている事業なので、達成するために色々な広報などしっかりやっていきます。ただ、配ることが目標ではありません。人生の記念としてしっかり管理して育てていただけるように、ニーズを踏まえながら展開していきたいと思います。</p>
(高田委員)	<p>実が成るものはかわいがってもらえるかもしれません。色々工夫をお願いしたいところです。</p>
(石原委員)	<p>少子化も影響しているのですか。</p>

(事務局)	入学の際に人生記念樹の案内を入れて、そこでの応募は多い印象を持っています。少子化も無関係ではないかもしれませんが。しっかりPRしていきたいです。
(今関委員)	植木鉢という手がありますね。何かいいのはないでしょうか。アジサイなどでもいいですよ。
(高田委員)	今、何種類ぐらいあるのですか。
(事務局)	基本は、9種です。区の木として指定されている樹種もあります。アジサイもあります。 キンモクセイ、ドウダンツツジ、ハコネウツギ、ハナミズキ、ヤマザクラ、セイヨウベニカナメモチ、サツキ、モッコウバラ、アジサイです。
(今関委員)	植木鉢ができるのはモッコウバラとアジサイです。ドウダンツツジもやろうと思えばできますよね。でも、あれはできれば地植えで大きくして紅葉も楽しみたいです。
(事務局)	基本は地植えで考えられた制度なので、そろそろそういったところに目を向けて検討していきたいと思います。
(高田委員)	地域緑のまちづくりは3か年で15地区ですが、コロナでなかなか皆さん集まるのが難しいのですか。
(事務局)	<p>去年は増えて、目標6団体に対して7団体で、協定までうまく運べました。コロナ禍であっても個別に説明会を実施するなどして、目標以上の協定を結べたかと思います。</p> <p>一緒に取組をしているコンサルタントがまちづくりの団体に声かけをしたりして、少しずつ輪が広がっています。5年間で目標に達するかどうかはこれからですが、少しずつ広がっています。</p> <p>個々の取組の状況を見ると、やはり集まって花苗を植えたりするには皆さん非常に苦労しています。少しずつコロナの状況が緩和され、感染症対策をしながら活動を再開する団体も増えていきます。そういったものは状況を見ながらサポートしていけたらと思います。</p> <p>一時は本当に何もできず、活動が停滞してしまいましたが、少しずつ動き出しています。</p>
(高田委員)	その中で工夫した成果がこうなっていると思います。
(今関委員)	地域緑のまちづくりをしているところは割と広い場所ですか。
(事務局)	地域緑のまちづくりは、まとまりの目安の範囲はもちろんありますが、コンパクトな提案などもまずは相談してもらえたらと思います。緑化する面積というよりは、地域での広がりや、関連する団体がどのぐらいあるかといったところで協定に結び付けることをしているので、相談してもらえればと

	<p>思います。</p>
(今関委員)	<p>緑の活動は、引っ張ってくれる人がいないと取りかかれな いです。それが難しいです。割と熱心な人がいたから多分、 応募したのでしょう。 始めても、その人が最後まで引っ張らないと、なかなかう まくいきません。</p>
(事務局)	<p>我々が課題として考えている活動の継続について、かなり 属人的に活動があります。その人がリタイアしたり、活動か ら外れてしまったタイミングで活動自体が停滞したり、縮小 してしまう状況もあります。協定期間中に組織としてうまく 回るように成長してもらいたいと思っています。なかなか難 しいです。</p>
(今関委員)	<p>一番難しいです。協定期間は3年間でしたか。</p>
(事務局)	<p>協定を結んでから3年間です。</p>
(今関委員)	<p>その後、各区の緑の推進団体に関わってもらおうといいかも しれません。前と変わって、プランターでなくても登録さえ してあれば花の苗や球根、種だったら無料でもらえます。幾 らでも、やろうと思えばできるはずです。引き継いでもらえ ればと思います。 でも、みんな年を取ってきたから「何とかしなければ」と 言っています。もうみんな後期高齢者ばかりになってきてい ます。 60歳定年で生活に余裕ができれば、若い人も少し緑に関 わってくれる人が増えてきます。緑がないと温暖化も進む という話です。究極的にはそこへ行ってしまう気がします。 増やしていかないとと思っています。取りかかりには緑化 というのはいいのです。</p>
(高田委員)	<p>順番に世代交代して、そこに活躍の場があるということは、 目標としてはいいと思います。</p>
(今関委員)	<p>いいと思います。会社勤めで地域と関わっていなかった人 が地域に入っていくためにはどうやったらいいかというこ とです。奥さんに「公園に掃除に行くように」と言われて来 た人を1回目ですっかりつかまえたら、町内会長までやって くれた人がいました。地域にしっかり根を下ろしてくれまし た。</p>
(高田委員)	<p>きっかけがとてもソフトでいいですね。</p>
(今関委員)	<p>別にそんなに話すこともないし、やることはホウキを使え れば済むことです。花が咲けばやはり楽しいですから。 地域デビューにはもってこいです。アピールしてもらえれば と思います。</p>
(高田委員)	<p>では、この施策2についての評価はいいですか。</p>

	<p>続いて、柱3全体への評価・提案についてです。皆様、いかがでしょうか。また、全体を通じて何かありますか。</p>
(国吉委員)	<p>P17の図では、区によってすごくたくさん実績があるところとないところがあります。このバラつきは均等化しようというような方向なのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>もちろん、全区の色々な場面で声かけをしています。我々としては全区で展開したいと考えています。</p> <p>ただ、これは地域の発想によって生まれる事業なので、無理やり「ここにはないので、何か起こしてください」ということではないと思っています。積極的に手を挙げてもらったり、相談してもらったところ、発意があるところを念頭に進めさせてもらえればと思います。</p> <p>引き続き、ないところに何か掘り起こしがいないか、我々からも、一緒に連携しているコンサルタントなどとも、そういう芽を探す努力はしたいと考えています。</p>
(高田委員)	<p>この施策があることが広報されれば、それがまた皆さんの活動のきっかけになります。</p>
(事務局)	<p>緑がたくさんあるところは、緑化をして何か地域活動しなければならぬという切迫感がないのかなというのが印象としてあります。</p>
(国吉委員)	<p>森や農地などの他の柱の施策で充実したらいいということですね。</p>
(今関委員)	<p>いかにそれを残すかです。うちのほうは、農地などがあつたのが全部住宅になってしまいました。</p>
(高田委員)	<p>緑被率は5年ごとに公表されています。調査結果から、緑がある地域のほうが減る割合が大きかったです。直近の3回ぐらいで比較しました。そういう流れもあるのかなと思います。原因は分からないですが、なくなるときはなくなります。</p>
(国吉委員)	<p>住宅化したり、森がなくなったりというのがありますね。</p>
(今関委員)	<p>森を大きく削って住宅を開発してしまいます。あの減り方は大きいです。</p>
(国吉委員)	<p>そのはざままで花と緑が入ればいいですが、なかなかそうはいきません。その期間が少なかったりします。</p>
(高田委員)	<p>安心してはいられません。</p>
(今関委員)	<p>緑が多いと思っていたらいつの間にか売られてしまっています。市街化調整区域だと思っていたのが市街化されていたりします。そうするともう駄目です。皆さん大体、売ってしまいます。</p> <p>今日は40年前の本を持ってきました。1989年7月20日発行です。これを見ると、横浜は緑が多かったのです。多か</p>

	<p>ったはずなのに、減ったなと思っていました。ちょうどこれから始まったのです。</p>
(高田委員)	<p>継続してやっていくことが大事ですね。</p>
(今関委員)	<p>私はこれで地域にはすぐ溶け込めました。だんだん地域に若い人が入ってきたら、皆さん子育てに忙しいです。共働きで昼間いない方も多いです。</p>
(高田委員)	<p>その間にも緑は重要で、それに関われなくても、歩くところや眺めるところに緑があることが重要ですね。</p>
(石原委員)	<p>全体的には3か年の計画が出てきました。おおむね順調に進んでいるのかなと思います。参考までに、計画の柱の1、2は順調に進んでいるのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>柱1については、樹林地の保全・育成、人材の育成です。みどりアップ計画の根幹です。樹林地保全の目標は300ヘクタールですが、そこはなかなか厳しいところがあります。所有者に保全を働きかけますが、コロナ禍でなかなかお会いできていないことがあります。</p> <p>みどりアップ計画を13年やっていく中で、保全対象の土地の単位がだんだん小さくなってきています。筆数で数えると数があっても、面積では小さくなっていきます。面積としては達成できない事情があります。</p> <p>午前中に森部会もありましたが、コロナ禍であったとしても、指定を進めているところについては、むしろ評価できるのではないかという意見をもらっています。コロナ禍で自然を求める市民の意見がある中で、引き続き進めていってほしいという意見をもらっています。</p> <p>農について、象徴的なのは水田の保全があります。横浜市内に100ヘクタール超の水田があります。その9割ほどは、農家の方に奨励金を支援して保全しています。農景観保全の部分では達成できていると思います。</p> <p>それから、市民が関わる農園には、農家が開設する農園もあれば、市が農地を買い取っているものもあります。そういったニーズへの対応が進んでいます。ニーズはけっこうあるかなと思うので、そこは進めていく必要があると認識しています。</p> <p>この計画期間に入ったとたんにコロナ禍というのはありましたが、これまでの積み重ねもあったなかで、3年間取り組んできたことはおおむね意義があったと思います。</p>
(高田委員)	<p>以上、よろしいでしょうか。</p> <p>ありがとうございました。それでは議題1の評価、提案等については以上といたします。委員の皆様そのほか何かございますか。特になければ、事務局へお返しします。</p>
(事務局)	<p>今日は貴重な意見ありがとうございました。会長が急きょ欠席ということで、進行ありがとうございました。意見を踏まえて会長と内容を精査していきたいと思います。</p>

	<p>以上で終わります。ありがとうございました。</p> <p>(一同) ありがとうございました。</p>
<p>資 料 ・ 特記事項</p>	<p>次第 資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議 2021年度報告書(案)【抜粋】 別紙1 横浜みどりアップ計画[2019-2023] 2021年度事業目標及び進捗状況</p>